

連続携行式腹膜灌流透析退院後の訪問看護を開始するにあたって

人工透析部 ○神保洋子 森 吉野山 松井 溝口 戸田

I はじめに

高齢化社会の到来と共に、糖尿病、心疾患と合併症を多くもった高齢の連続携行式腹膜灌流透析（以後CAPDと略）導入患者も、教育・指導後は在宅医療となる。退院後、環境の変化も手伝ってか、1カ月以内のトラブルや操作ミスを起こす確率が高い。そこで今回、保健指導部と連携をとり、CAPD訪問看護の基準を作成し、退院後1週間以内に、訪問看護ができるようになったので、ここに報告する。

II 方法・実施

CAPD訪問看護の基準（表1）、CAPDサマリー（表2）、CAPD訪問看護チェックリスト（表4）を作製し、保健指導部による訪問看護を開始した。訪問看護の評価により、再指導に役立てる。

III 結果

CAPD訪問看護の基準、CAPDサマリー、CAPD訪問看護チェックリストを作製することにより、保健指導部との連絡がスムーズになった。また、訪問看護実施により、入院中に教育・指導した通りにバック交換やカテーテルケアが実施されているとは限らず、手洗い、マスク装着の忘れや手洗い場所が遠い、器材の保管場所に日が当たるなど環境調整や再指導の必要性がわかった。また、精神的不安を訴える患者からは「助かった」という声も聞かれ、精神的援助にも役立てられた。

IV 考察

CAPD患者にとり退院は、在宅医療のスタートです。住み慣れた家に戻り、家族と共に生活できる楽しさ、うれしさと同時に、これから1人でバック交換を続けていかなければならないという孤独感、また、いつどのような形で起こるか判からないトラブルに、家族と共に対処してゆけるかという不安もかかえている。その気持ちを反映してか、退院間際になり「もう少し退院を延期させて下さい。」と家族から言ってくる場面も少なくない。

退院後は月1回の定期診察と週2回の電話連絡を取るが、看護婦を心療介助・指導におわれ、ゆっくりと話を出来る時間が少なく、家族とはより話が出来る時間は限られてしまう。退院後、日が浅い時間にトラブ

ル・操作ミスを起こす確率も高く、不慣れなことに加え病院とは違い、環境整備が不十分なことも原因に考えられる。今回、保健指導部と連携をとり、CAPD在宅医療の訪問看護体制を整えることで、自宅での技術的フォロー、環境調整、精神的援助と在宅医療患者をささえることになり、また、CAPD指導スタッフは教育・指導の反省や評価となり、今後の指導に役立つられる。

V おわりに

患者個人に合った教育・指導を第一に考え退院へ運び、さらに今後は、退院後の日常生活、患者をとりまく環境を把握し、それに合わせた教育・指導を考え安心して退院できるように運びたい。

VI 参考文献

日野原重明・荻野文著：訪問看護の技術

図1 調査対象

n=40

項目		人数(人)	%
年齢	40歳代	14	35
	50歳代	9	22.5
	60歳代	13	32.5
	70歳以上	4	10
性別	男性	24	60
	女性	16	40
職業	あり	7	17.5
	なし	33	82.5
同居人	あり	38	95
	なし	2	5

図2 退院1、2ヶ月以内のトラブル状況

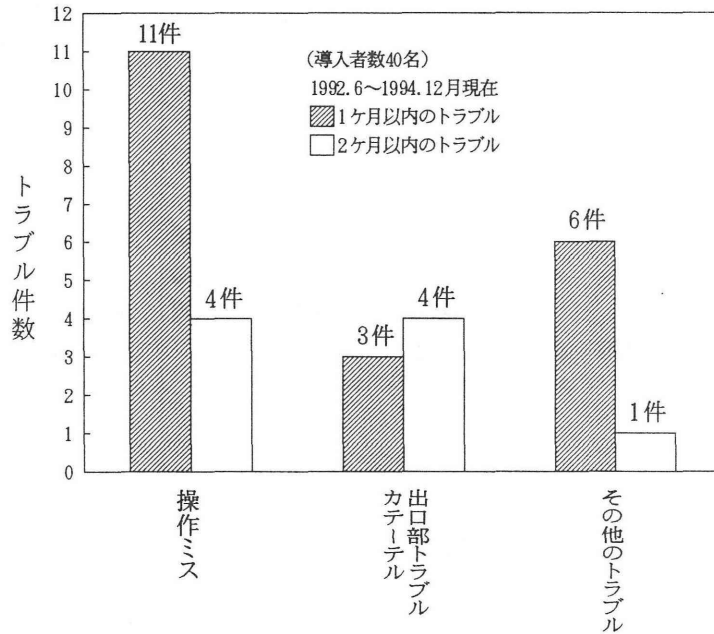


図3 年齢別退院1ヶ月以内のトラブル状況

年齢	操作ミス(件)	カテーテル出口部異常(件)	その他トラブル(件)
40～49歳	0	2	0
50～59歳	0	1	0
60～69歳	10	0	6
70～79歳	1	0	0
計(件)	11	3	6

(表1)

CAPD訪問看護基準

1. CAPD導入決定—全CAPDケース対象に退院後訪問看護を依頼する。

方法 ①CAPD決定し、OPE日が決まったら保健指導部へ連絡する。
(病棟名・患者名・年齢・OPE日)

②主治医に「訪問看護依頼書」を記載してもらい保健指導部に届ける。
(退院前訪問看護実施に必要)

※退院前訪問看護について入院が一ヶ月以上の場合のみ限られる。
2. 退院決定一週間前

方法 「CAPDサマリー」コピー
「チェックリスト」(入院中に指導したチェックリスト)
「CAPD訪問看護チェックリスト」
「訪問看護依頼書」コピー(1で記載されていれば有効)
を保健指導部へ提出

↓

保健指導部が退院後一週間以内に訪問看護を実施した後
「チェックリスト」「CAPD訪問看護チェックリスト」にて報告される。

↓

再指導
3. 継続訪問

CAPDの継続に問題があると判断されたケース

 - ①腹膜炎が2回以上発症した患者
 - ②精神的に不安な患者・家族
 - ③技術フォローが必要な患者・家族
 - ④病状管理が必要な患者
 - ⑤CAPD継続のために地域のケア体制を整え、要請する必要がある患者
4. 訪問看護終了患者

「訪問看護依頼書」
「CAPDサマリー」
「CAPDチェックリスト」
は看護計画1号用紙の次に綴る。

東京医科大学病院 人工透析部

(表2)

CAPDサマリー

氏名			
生年月日	年	月	日 生 歳
住所		
電話		
職業		
家族構成		
主介護者		
原疾患		
CAPD導入日	年	月	日
退院日	年	月	日
CAPDシステム		
CAPDスケジュール		
インスリン	朝	U	昼 U 夕 U
エポゾン注射	回/週	U	自己注射: 病院
身体機能	視力	眼鏡	有 無 ()
	聴力障害		有 無
	運動障害		有 無 (部位 程度)
問題点		
		
		
		
次回定期診察日	月	日	NS記録者

東京医科大学病院 人工透析部

(表3) 訪問看護の内容と回数

<内容>

- ①バッグ交換の仕方 ②カテーテルケアの仕方 ③日常生活の過ごし方
④病気の注意の仕方 ⑤家族の方へ介護の仕方

<回数>

退院1週間以内に1回、それ以後は必要に応じて訪問(週3回を限度とする)

(表4) CAPD訪問看護チェックリスト

氏名	殿	退院 前・後	訪問報告	No
チェック項目	評 価	気付いた点・指導内容		
環境 ・バッグ交換の専用部屋 ・部屋の広さ ・手洗い場所 ・整理・整頓 ・部屋の明るさ ・人の出入りの制限 ・換気や冷暖房の調節 ・動物(いる・いない)	有・無 量: 広い・狭い 近い・遠い されている・されていない 適・不適 できる・できない できる・できない 室内・ 種類()			
器材の保管場所 ・直射日光 ・湿度 ・広さ ・埃	あたる・あたらない ある・ない 広い・狭い 少ない・多い			
バッグ交換場所 ・テーブルの広さ ・テーブルの高さ ・清潔度 ・姿勢	広い・狭い 適・不適 適・不適 椅子・座敷			
浴室(スタンダードタイプ) ・フックの設置 ・フックの位置	可・不可 適・不適			
必要物品 ・血圧計 ・体温計 ・体重計 ・血糖測定器(指示ある人) ・秤 ・加湿器	自己測定可・不可 有・無 有・無 有・無 ; 自己測定可・不可 有・無 有・無			
その他の状況				

保健指導室 担当保健婦